

令和7年度秋田県中学校部活動 地域移行推進事業成果報告会事例紹介 【ローイングの事例】



令和8年3月5日(木)

大潟村教育委員会 会計年度任用職員
(地域おこし協力隊) 苅谷 裕子

1. 大瀧村について

① 大瀧村人口:男性 1,442人・女性 1,472人・合計 2,914人・世帯数 1,154世帯

※3月1日現在

② 主要な産業:農業

③ 教育機関:こども園(1)・小学校(1)・中学校(1)

④ 中学校部活動:運動部4・文化部1・新規地域クラブ3(陸上、水泳、ローイング)

⑤ 中学校生徒数:85名

2. 大湊村の部活動について

①どんな部活動が活動しているの？

運動部：野球・卓球・バレーボール・剣道 文化部：吹奏楽

②どんな地域クラブが活動しているの？陸上・水泳・ローイング（ボート）

③今後の地域展開の流れは？！

R8年度前半に地域クラブ設立（各既存運動部）

R9年度～地域クラブとして、中体連の大会に参加する

【運営主体】NPO法人スポーレおおがた

【実施主体】各地域クラブ

3. ローイング(ボート)実績について

- ・大潟村は以前よりローイング(ボート)競技の全国大会やキャンプ受入の実績が多くある。
- ・以前、大潟ジュニアローイングクラブが活動しており、数年休部の状態だった。
 - *昭和59年 全国高等学校総合体育大会(インターハイ)
 - *平成19年 第62回国民体育大会ボート競技大会(秋田わか杉国体)
 - *令和3年 TOKYO2020オリンピック・パラリンピック大会
デンマーク代表事前キャンプ
 - *令和5年~ 明治安田ボート部合宿
 - *令和7年 パラローイング(障がい者ボート)日本チーム合宿

パラローイング(車いす選手)乗艇時の様子→



4. ローイング（ボート）クラブ立上げについて

- ・大潟村にはこれまでにローイング（ボート）での実績が多くある。
- ・ローイング（ボート）は、大潟村の特色を活かしたスポーツである。



5. ローイング(ボート)クラブ立上げの経緯について

新中学1年生保護者から、村民のボート関係者に相談があり、

『ぜひ大潟村の特色を活かしたスポーツを経験させてみたい』ということ、

『指導者が4月から地域おこし協力隊として着任した』ことから、

活動がスタートした

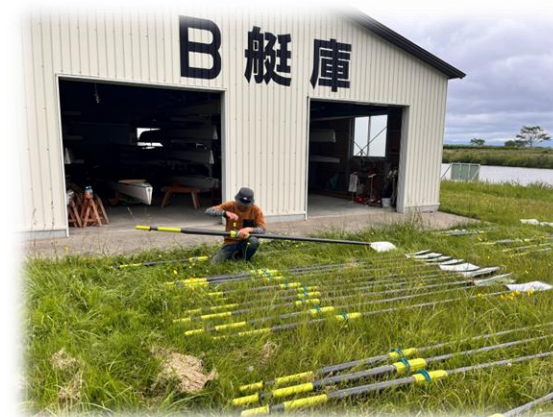
(以前、大潟ジュニアローイングクラブとして活動していた)

当初は部員2名→現在は部員5名(全員、新中学2年生)



6. どんな活動をおこなっているの

	水上練習	陸上練習
活動日数／時間	平日・休日 2～3回・2～3時間	平日・休日 2～3回／1. 5～2時間
活動場所	大潟漕艇場	大潟村村民体育館
内容	ドリル UT インターバル等	サーキット ローイングマシン (UT／インターバル等)



7. その後の効果

- ・ 村民にローイング競技の存在を知ってもらうきっかけになった
- ・ ローイングファンが増えた！
- ・ トップアスリートを講師に招聘し、小学校や中学校で講演を行い、スポーツを通じて将来の目標をきめるきっかけ作りができた！



8. ローイング(ボート)クラブでの課題とその解決

項目	どんなこと
道具の劣化	大潟村が所有しているボートがかなり古くボディーが劣化してしまっていたり、ボートを漕げるようにセッティングするの準備に難儀したR8年度以降は秋田県ローイング協会とも調整を行い、艇の確保等を行う
救助体制の不備	モーターボートを運転できるものが不在だった。 →現在は監督が免許を取得している 使用できるモーターボートはあるが、エンジンの取り外しがかかなりの重量で毎回行うのは重労働である
秋田県ローイング協会との連携不足	以前は秋田県ローイング協会との連携が一部不足していた。 →監督が協会関係者とコミュニケーションが取れており、スムーズに連携できており、強化された。
指導の体制の課題	大潟村のボート競技経験者はとても多いが、村外・県外流出や農家を継いでいる人が多く、特に農繁期は手薄になってしまう。

9. 今後の目標

- ・ 競技人口の増大
- ・ 競技力向上

秋田県内ではローイングを経験できるのは2か所

①大潟村

②由利本荘市

※双方が協力をして、合同練習等を行い競技レベルアップに努める

- ・ 地域クラブでの活動を通じて、より充実した中学校生活を送る
- ・ 7月下旬に開催される、全国中学校ローイング選手権大会を目指す！！

ご清聴ありがとうございました。

